

# 2024年度(2023年度実施)入試日程

## 地域協働学部

選抜種類	募集要項公表	出願期間	試験日	合格者発表日	入学手続期間
総合型選抜 I	6月5日(月) 公表	9月1日(金)～9月7日(木)	9月15日(金) : 第1次選抜 10月14日(土) : 第2次選抜	9月29日(金) : 第1次選抜 11月1日(水) : 第2次選抜	11月2日(木)～11月10日(金)
学校推薦型選抜 I	6月5日(月) 公表	11月2日(木)～11月9日(木)	11月18日(土)	12月1日(金)	12月4日(月)～12月11日(月)
一般選抜 (前期日程)	10月下旬 公表予定	1月22日(月)～2月2日(金)	2月25日(日)・2月26日(月)	3月7日(木)	3月8日(金)～3月15日(金)

※出願期間や試験日程等は、必ず募集要項で確認してください。

## 地域協働学専攻

選抜種類	募集要項公表	出願期間	試験日	合格者発表日	入学手続期間
一般・社会人 (第1次募集)	6月12日(月) 公表	8月22日(火)～8月24日(木)	9月23日(土)	10月6日(金)	3月6日(水)～3月8日(金)

※出願期間や試験日程等は、必ず募集要項で確認してください。

※第1次募集で定員を満たさない場合、第2次及び第3次募集を行う場合があります。

▶出願方法は、インターネット出願です(大学院入試を除く)。

インターネット出願に関する詳細は、高知大学受験生サイトで閲覧またはダウンロードしてください。

高知大学受験生サイト

<https://nyusi.kochi-u.jp/>



入試に関するお問い合わせ先

学務部入試課入試実施係

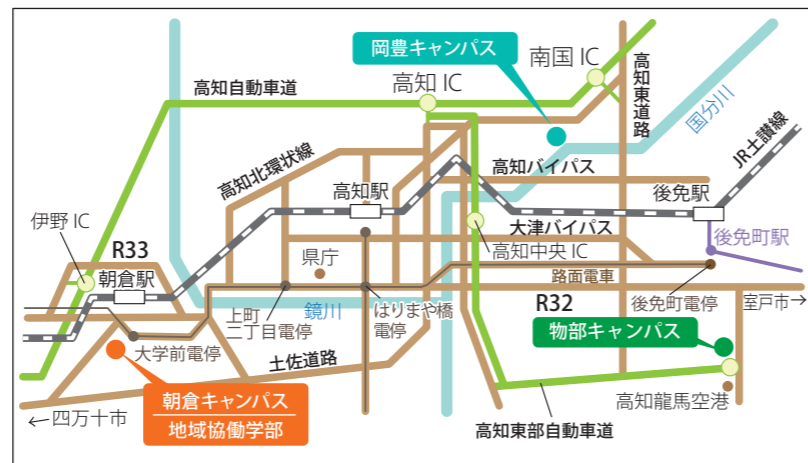
TEL 088-844-8153 FAX 088-844-8147

E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

## 地域協働学部へのアクセス

地域協働学部までの所要時間は次の通りです。

- 高知龍馬空港から 車で約40分  
空港連絡バスで約35分「はりまや橋」または、約40分「JR高知駅」で下車後、バス、路面電車またはJR土讃線へ乗換え
- JR高知駅から 車で約20分  
バスで約25分、「朝倉高知大学前」下車  
路面電車で約30分、「朝倉(高知大学前)」下車すぐ  
JR土讃線で約15分、「朝倉駅」下車、徒歩3分
- はりまや橋から 車で約15分  
バスで約20分、「朝倉高知大学前」下車  
路面電車で約30分、「朝倉(高知大学前)」下車すぐ
- 高知インターチェンジから 車で約30分
- 伊野インターチェンジから 車で約5分



## 高知大学 地域協働学部

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1 TEL 088-888-8042 FAX 088-888-8043

E-mail ks52@kochi-u.ac.jp

高知大学ホームページ <https://www.kochi-u.ac.jp/>

地域協働学部ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/rc/>

# ともに学び ともに育つ

## 高知大学 地域協働学部 地域協働学専攻 2024





協働ってなに？

1年生

理解する。

まずは地域に入り、地域を体感する。語らいや協働作業を通じて、信頼関係を築く。それが協働の土台となります。

2年生



どうやって学ぶ？

立案する。

学生がやりたいことを地域でやるのではなく、地域の未来のために一緒に何ができるかを考える。試行錯誤は覚悟の上です。



協働で  
なにができる？

3年生

実践する。

学生と地域が同じ目的を共有し、対等な立場で協力し、ともに働く。その“本気”が、新しい風を吹かせます。



そして社会へ

4年生

あなたは  
どんな人になる？

地域協働を実践する中で得た力は、あなたが将来どんな方向に針路をとっても必ず役立つ力となるはず。さあ、本当のスタートはここからです。

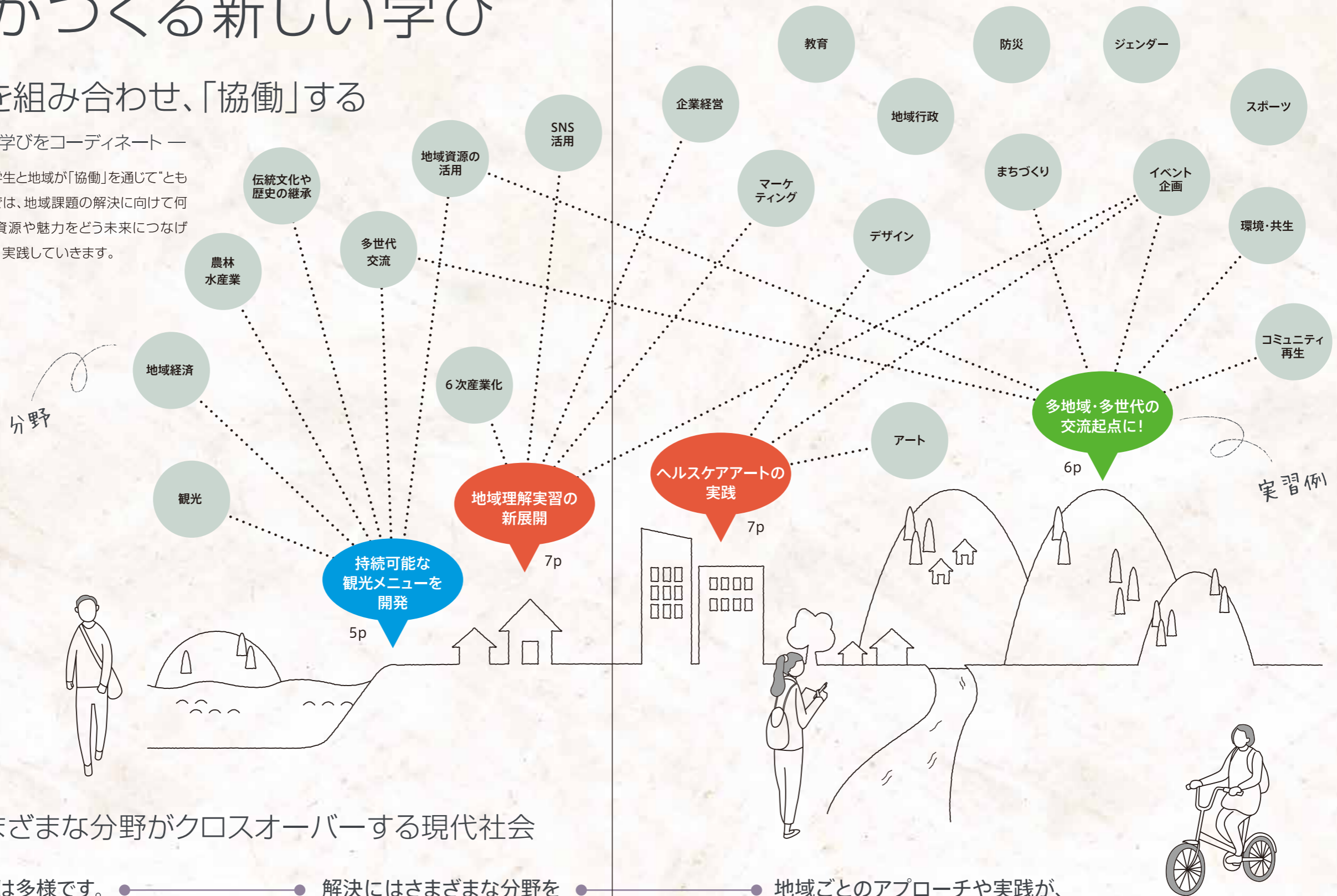


# 君たちがつくる新しい学び

## 多彩な要素を組み合わせ、「協働」する

— 地域や課題に応じて、学びをコーディネート —

地域協働学部が目指すのは、学生と地域が「協働」を通じて「ともに学び、ともに育つ」こと。授業では、地域課題の解決に向けて何ができるのか、あるいは地域の資源や魅力をどう未来につなげていくのか、地域と一緒に考え、実践していきます。



## さまざまな分野がクロスオーバーする現代社会

### 地域は多様です。

そこに暮らす人、関わる人など地域には多様な主体がいます。また抱える地域課題も、社会的・経済的環境の変化とともに複雑化しています。

### 解決にはさまざまな分野を学ぶ必要があります。

従来のものの見方では解決の糸口がつかめない、ひとつの分野の知識だけでは組織や物事が動かない——そんな現状を打破するのは、幅広い視野と専門性。総合力が求められます。

### 地域ごとのアプローチや実践が、「オンリーワン」の学びになります。

地域における協働の実践に、ひとつとして同じものはありません。調和的・継続的な課題解決に向けて取り組むプロセスのすべてが、新たな挑戦であり、価値の創造。従来の大学教育の常識を覆す、まったく新しい学びのかたちです。

# 答えはひとつではない

— 実習例から見る、地域協働のかたち —

地域協働の実習に、お手本やシナリオはありません。地域の特徴や人の想い、学生たちの個性に応じて、多彩な学びが広がっています。

## 持続可能な観光メニューを開発 — 黒潮町 —

みながわ  
蜷川実習班 黒潮町クラスター | 取材時4年生 |

美しい海と山に囲まれた黒潮町で、集落活動センター「であいの里蜷川」を活動拠点に地域住民との協働に取り組んだ蜷川実習班。地域にとって最大の課題は「高齢化」「人材不足」であると分析し、住民が無理なく続けられる新たな観光体験メニューと集客のしぐみを開発。マニュアルを作り、地域に引き継いだ。



### 少ない人で運営できる観光体験をプロデュース!

地域理解の中で気づいたのは、「であいの里蜷川」の体験・宿泊事業に、人手が少なくても成り立つプログラムや集客のしぐみが求められていたこと。そこで、キャンプファイヤーやピザ焼き体験の商品化、SNSの活用、HP予約サイトの構築に取り組みました。情報共有不足など反省点もありましたが、地域の多様な人を巻き込み協働できたと感じています。

▶この実習に関連する分野

- 観光
- 地域資源の活用
- 多世代交流
- 伝統文化の継承
- 地域経済
- 農林水産業

## 多地域・多世代の交流起点に! — 土佐町 —

いしはらの里実習班 嶺北・柳野クラスター | 取材時4年生 |

中山間部の土佐町で、集落活動センター「いしはらの里」と協働し、関係人口の増加や多世代交流の促進を目指すいしはらの里実習班。地域の人が先生になる学びイベント「いしはら塾」や、旧郵便局を活用したみんなの居場所「ほっちり郵便局」を立ち上げ、里山のコミュニティ活性化に取り組んだ。



### いしはらの人材と資源を次世代につなぐ

コロナ禍で、里山遊びなど多彩な企画を準備した夏の「いしはら塾」が中止になったり、現地に行けないことで地域の方との信頼関係が揺らいだり、壁を乗り越えながらの実習でしたが、地域の人とともに協働をつくり上げた手応えを感じています。また旧郵便局は、実習終了後も地域主体で継続して活用されており、それを何より嬉しく思っています。



▶この実習に関連する分野

- 多世代交流
- まちづくり
- 「L」/「H」/「I」再生
- 地域資源の活用
- イベント企画
- 環境共生



# 新たな実習のかたち

— コロナ禍における実習 —

コロナ禍で思うように現場に入れない中でも様々な工夫で地域や組織との協働を創り上げていった学生たち。そのプロセスを紹介します。

## 地域理解実習の新展開 — 学部1年生の取り組んだ新しい学び —

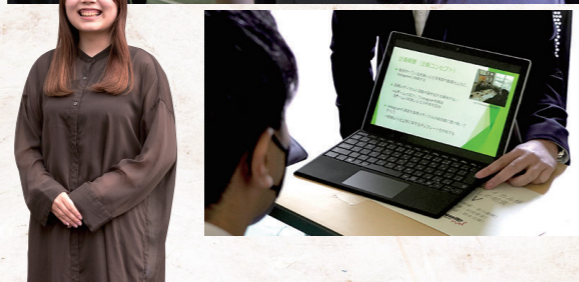
実習地に入れない1年生に対して、オンライン実習の進化型として展開されたのが、新たな交流プログラムです。

学生は12のグループに分かれ、「短期実習パートナー」である企業のWill・Can・Mustに着目しながら、「SNSを活用した広報活動」をテーマに3カ月かけて企画を立案。イメージ動画などを作成しました。成果は、年度末の学習成果報告会の中で、協働パートナーの方々や上級生も交えたワールドカフェ形式<sup>※</sup>で発表。さらなるディスカッションを通じて、新たな気づきや今後の実習に活かせるヒントを得ることができました。 ※リラックスして少人数で対話する会議形式



### 議論を重ねる中で、企業の思いが見えてきた!

私たちは南国にしがわ農園さんとの協働に取り組みました。最初はSNSで主力商品のグアバ茶日記を発信する企画を立案しましたが、議論を重ねる中で企業側の本当のニーズがわかり、企画を変更。イベントで配布する試飲商品の企画と、グアバ茶の健康効果を測る学生モニターを実施しました。実習を通じて、企業が追求める価値や生み出す価値は利益だけではないことを実感。そういった理解が協働に大きく影響することも学びました。



## ヘルスケアアートの実践 — 『KISEKI展』開催

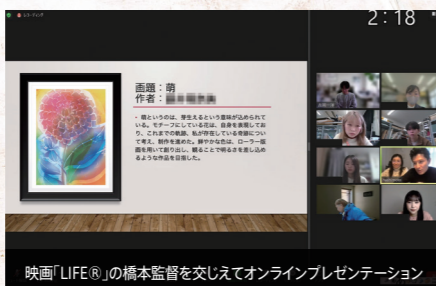
デザイン研究室でデザイン・アートを学ぶ学生達は、「LIFE@いのち」試写会(オーテピア)に参加・鑑賞しました。そして、そこで得たアイデアやインスピレーションを元に命に関する作品制作を行い、その作品の発表の場として「KISEKI展」を開催する運びとなりました。

学生達は生命の生れてくる「奇跡」を、宇宙や愛、輪廻、根源、原像といった壮大で多面性のあるキーワードと結び付けました。そこから導き出された作品には、1人1人が儚く尊い命である私達が一瞬一瞬を踏みしめて生きてきた「軌跡」が表現されています。

本展は、ヘルスケアアートの実践として、アートのもたらす力で多くの人を勇気づけたいという願いから、企画から準備、展示まですべてを学生が主体となって行い、高知大学医学部附属病院や高知県民文化ホール、高知市内の福祉施設で開催されました。



高知県民文化ホールでの展示風景



映画「LIFE@」の橋本監督を交えてオンラインプレゼンテーション



高知大学医学部附属病院での展示風景

# 学生が自ら企画し、実施する

## 学習成果報告会 — チキョフェス2022

地域協働学部では、1年次・2年次・3年次の終わりに、それぞれの班が行ってきた現地実習の成果を発表する「学習成果報告会」を行っています。



01:2-3年生の発表の様子 02:ブース展示 03:よさこい鳴子踊りも披露した 04:ブース出展は投票で上位チームを表彰

### 報告会の概要

今回の報告会では、新型コロナウイルスの影響が少なからずあった学びについて、どのように工夫し活動したのかをグループ別にまとめた発表とブース展示が行われました。また、新たな試みとしてスポンサー企業のご支援を募り、パンフレットやグッズ制作、当日の演出等に活かす試みにもチャレンジしました。

報告会は、学年を超えた学生同士の学び合いと交流の場でもあり、学びを与えてくださった協働パートナーに感謝をお伝えする大切な機会。そして、当日までの準備自体が学びにつながる貴重な場となっています。今年度の学生実行委員会の共同委員長の二人にお話を聞きました。

## 何でも楽しみ、何でも学びにする「チキョウ」らしさ全開のイベントに

地域協働学部の学びにおいて、やはり特徴的なのは実習です。そして実習における学びは、成果だけでなくその過程の部分がとても重要です。そこで私たちが考えたのは、成果報告会を結果だけでなく、協働のプロセスの中で大事にしたことや、失敗や壁にぶつかって得た気づきなども含めてパートナーの地域や企業の皆さんと共有できる場にするこゝでした。また、学生の間からは「もっと楽しい場にしたい」という声が多くあり、報告会を「チキョフェス」と名付け、ワクワク感と主体的に参加するイメージを打ち出しました。

当日は、1年生の発表は全学年と外部パートナーの方も参加したワールドカフェ形式で、2~3年生の発表はプレゼン形式で行い、加えて各実習地のブース出展を実施。地域協働学部に関わる様々な人の多様な視点が交ざりあい、交流や意見交換ができたことで、単なる報告会を超えた、さらに大きな学びになりました。また、コロナ禍にあったこの数年、外部の方だけでなく学年を超えたつながりも希薄になりかけていましたが、今回はそれを払拭し、次年度以降につなげる再スタートのような機会にもなりました。



### それぞれの実習地で学んだ成果を共有する

地域に寄り添って、そんな簡単なことじゃない。たくさんの壁があり、地域の人たちとの思いのズレがあり、仲間との衝突があり、自分の気持ちとの折り合いがあり……。その中でコツコツと積み上げた「協働」が絆を生み、成果をもたらします。一つではない答えを探して地域とともに歩んだ軌跡がここにあります。

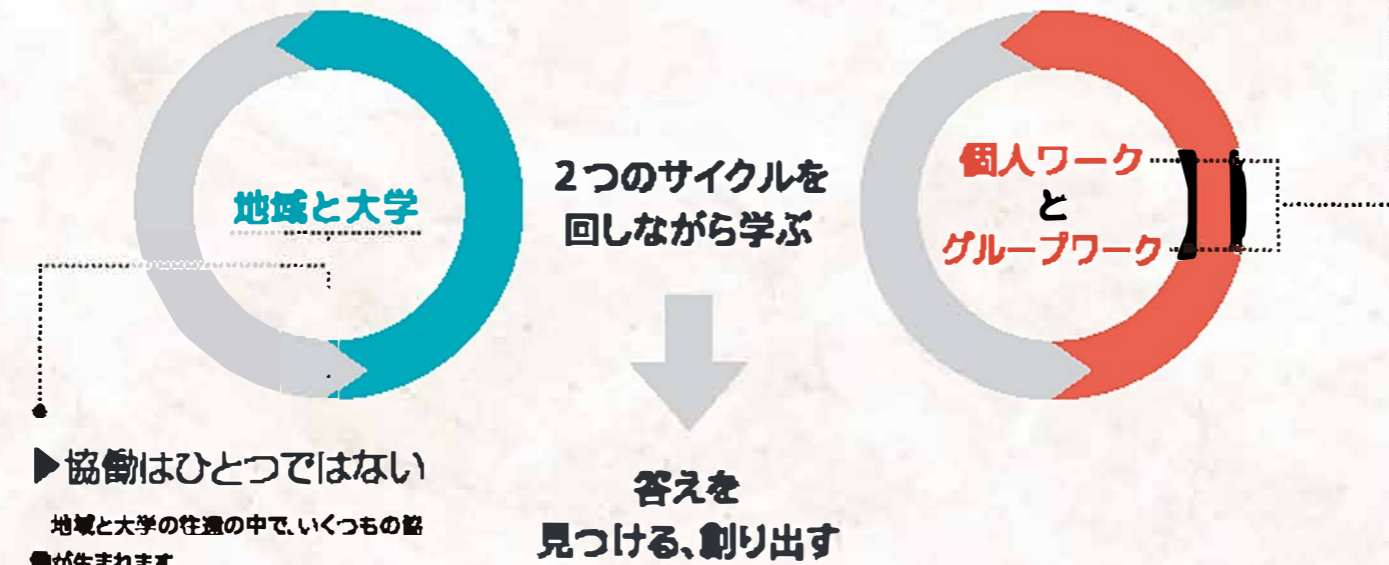


# 協働的学びとは

課題解決のプロセスには、困難や失敗がつきものです。それを乗り越え、地域協働をやり遂げるために必要なのが、「判断力」、「粘り強さ」、「マネジメント力」です。協働的学びによって、これらの力を養います。

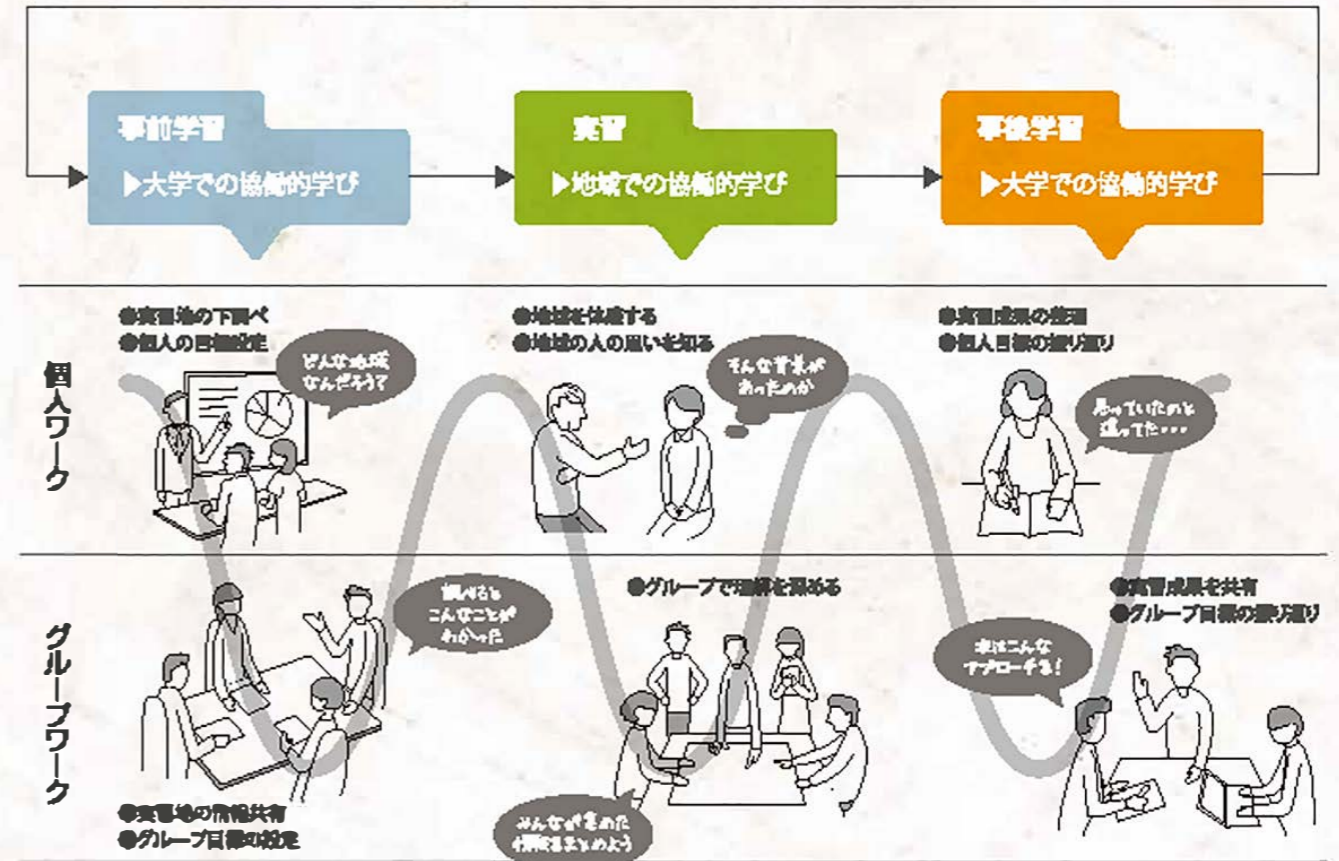
## 鍵となる2つのサイクル

最大の特徴は、地域での学び(実学)と大学の学び(座学)の往還。大学で学ぶ理論や専門性(=専門知)と、現場で必要とされる対応力や柔軟性(=実践知)を重ね合わせ、そのギャップを埋めながら、協働の本質を学んでいきます。さらに、すべての科目において個人学習とグループ学習を繰り返すことにより、学びの質と意欲を高めます。



## ▶グループワークと個人ワークの相乗効果

協働的学びの基本はグループワークです。個人ワークの内容を仲間同士で共有することで、「気づきあい」、「刺激しあい」、「批評しあい」、「高めあい」の効果が生じます。



## 社会の現実の中で自ら学び、自分の可能性を広げよう

大石達良 学部長専攻長

地域協働学部・地域協働学専攻に進学を考えている皆さんは、今、自分の将来や今後の社会のあり方について真剣に考えていることと思います。

これからの世界は、時代の変化が格段に速くなり、不確実性がいっそう増していくと考えられています。そのような世界で自分がどのように生きていくか、どのような社会を築いていくべきかについて考えることは非常に難しいように思われます。

私は、このような現実の中で大切なことは、自ら学ぶという意思を持ち続けることだと思っています。自ら学び考える中で、社会についての理解が広く深くなり、今まで経験できなかった新たな世界が見えてきます。そしてその中で、理想とする社会のあり方や、その社会の構築のために自分ができることやすべきことも必ず見えてきます。

地域協働学部・地域協働学専攻は、このような自ら学ぶという者にとって格好の学修の場を用意しています。学部の授業は、大学と地域を往還しながら学ぶことを基本としています。学部教育を特徴づけている

実習科目では、頻りに学外に出かけ社会の現実を理解した上で地域の方々や協働しながら実践的な学びが行われます。また学内に戻ってからの振り返りでは、学生同士で議論しながら協働的な学びが行われます。専攻の授業では、地域の現実的な社会課題に対して、社会の様々な方々との協働的取り組みを大切にしながら、学究的に深く追求していきます。

ただ、協働的な学びの過程には困難があるものです。現実社会の問題の深刻さに押しつぶされそうになったり、出口の見えない議論に希望が見出せないような気持ちになったりすることもあると思います。

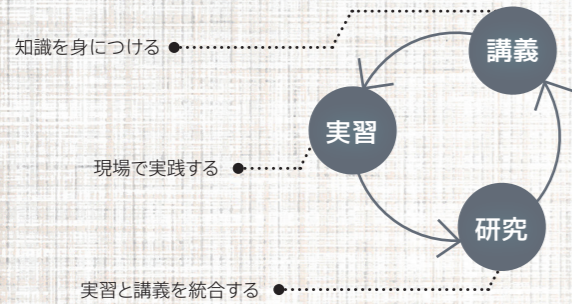
しかし、地域協働学部・地域協働学専攻では、数多くの人々が皆さんを支援してくれています。地域の方々(実習受入地域の方々、地域の企業や団体の方々、調査や履修の協力者の方々など)、学生・院生の仲間(同級生、先輩や後輩)、そして大学の教職員。私たちは、皆さんを精一杯サポートしていきたいと思っています。

ぜひ、地域協働学部・地域協働専攻で一躍に学び、自らを成長させ、自分の可能性を広げましょう。

# 成長へのステップ

段階的プログラムで、自律的な成長を促す

## ▶三層の科目群



講義で基礎となる知識・技法を学び、その知識をもって地域に実習に入ります。実習で取り組んだ結果は、演習で分析・整理し、次のステップにつなげます。この3つの科目群がPDCAサイクルを描き、高い学習効果を発揮します。

## ▶実習を柱とするカリキュラム

### 1 年生 地域理解力を身につける

第1学期	第2学期
<b>課題探求実践セミナー</b> 高知の町や村で何が起きているのか。地域の人たちは何を考え、どのように行動しているのかをサービス・ラーニングを通じて知り、地域に向き合う作法を身につける。	<b>地域理解実習</b> 地域の活動の手伝いやヒアリングを通じて、地域の特性や課題を理解する。「地域理解力」の基礎を固める。

学習成果報告会

### 2 年生 企画立案力を身につける

第1学期	第2学期
<b>地域協働企画立案実習</b> 地域課題・地域資源の発掘・分類・整理を行い、地域資源を活用して課題解決を図るための企画立案(商品開発・プロジェクト等)を行う。「地域理解力」に加え、「企画立案力」の基礎を固める。	<b>地域協働事業計画実習</b> 地域資源を活用した商品化やプロジェクト・事業を実践する。商品開発・プロジェクト・イベント等の事業計画の立案と試行を通じて、「企画立案力」を発展させる。

学習成果報告会

### 3 年生 協働実践力を身につける

第1学期	第2学期
<b>地域協働マネジメント実習Ⅰ</b> 「地域協働事業計画実習」において策定した事業計画を実践し、その結果について点検・評価を行い、改善に向けた評価案の策定と自己評価を行う。やり抜く力とリーダーシップを育て、「協働実践力」の基礎を固める。	<b>地域協働マネジメント実習Ⅱ</b> 実践とその評価結果を地域住民と一緒に共有し、改善案を検討するワークショップを学生が主体となって計画・実施し、取りまとめを行う。ファシリテーション力や合意形成力を育成し、地域を巻き込み活動を進める「協働実践力」を身につける。

学習成果報告会

### 4 年生 地域協働マネジメント力の統合・深化

通年
<b>地域協働実践・卒業研究</b> 3年生までに実践した実習と学びを踏まえ、地域協働型プロジェクトの企画立案を行い、それを実践する。プロジェクトでは、協働パートナーを自ら見つけ、地域の特性を理解した上で、地域が有するさまざまな資源を活用するための協働の組織化を行う。 卒業研究では、地域協働実践を通じて獲得された個人の知識を理論化し、各地域における地域再生・発展のためのエッセンスを明らかにする。

卒業研究報告会

実習科目

講義科目

研究科目

共通教育	
初年次科目	教養科目

総合科目	
地域協働論	統計解析の基礎
生涯学習概論Ⅰ	質的調査法
地域産業経済論	企画立案事業計画基礎演習
地域社会学概論	地域協働チャレンジ演習Ⅰ、Ⅱ
社会調査論	ファシリテーション演習または
社会調査方法論	チームビルディング演習
社会調査データ分析	

地域協働研究Ⅰ
共通テーマ 地域課題の分析を通じた地域社会の理解

専門教育	
<b>地域協働マネジメント分野</b> 地域計画論 行財政論 地域資源管理論 経営組織論 非営利組織 マネジメント論 社会教育経営概論 会計学概論 生涯学習支援論 行政実務講座 金融・税務実務講座 海外特別演習 外国語特別演習 地域協働マネジメント特別講義 組織学習論	
<b>地域産業分野</b> フードビジネス論 六次産業化論 地域産業政策論 農業振興論 経営学 国際ビジネス展開論 地域産業連関論 中心市街地活性化論 里山管理論 産学官民連携論 アントレプレナーシップ論 コンテンツマーケティング論 デザイン論Ⅰ(基礎) デザイン論Ⅱ(応用) 地域産業特別講義	
<b>地域生活分野</b> 地域福祉論 生涯学習概論Ⅱ 地域健康スポーツ振興論 スポーツ社会学 環境社会学 地域防災論 比較地域社会論 非営利組織論 環境文化論 労働・生活とジェンダー	コミュニティデザイン論 ソーシャルキャピタル論 地域生活特別講義
多変量解析 プロジェクトマネジメント演習 社会調査実践演習 サービスデザイン基礎演習または非営利組織経営基礎演習	

地域協働研究Ⅱ
共通テーマ 地域協働における企画立案の手法と意義

地域協働研究Ⅲ
共通テーマ 実践に求められる協働の理論

地域協働実践・卒業研究

社会へ

# 大学院 地域協働学専攻(修士課程)

## —協働的学びの場をつくる地域協働のリーダーの「リーダー」—

大学院では、「地域との協働による学び」をさらに理論的に体系化し、社会に対して「働きかけ」ができる高度な地域協働のリーダー…つまり、地域協働のリーダーの「リーダー」を育成することを目指しています。少人数専攻のメリットを最大限に活かすため、主・副2名の教員が、個々の院生の研究テーマ及び学修履歴と地域協働実践経験を踏まえて、修士論文の作成まで研究指導することで、地域協働リーダーとしての技能の高度化を図ります。



### ▶アドミッションポリシー

地域協働学部における実習時間600時間に相当する現場経験(地域理解、企画・事業開発、実践とその理論改善等)を有し、なおかつ右記の諸能力を有する者を求めます。

#### 【知識・技能】

1. 第一次産業、地域の健康・福祉及びコミュニティに関する知識を中心に地域の産業及び生活・文化に化する幅広い知識を身に付けている。
2. 地域計画、地域資源管理、商品開発に関する基本的な知識及び技能を身に付けている。
3. プロジェクトマネジメント、協働マネジメント及びファシリテーションに関する基本的な知識及び技能を身に付けている。

#### 【思考力・判断力・表現力】

1. 論理的思考力と理性的判断力を持って物事に取り組むことができる。
2. 自らの行動や体験について深く見つめ直し、客観的に分析することができる。
3. 自分の表現を客観的に見つめ、他者に伝わる表現を心がけており、口頭と文章の両面にわたって十分な表現力を持ち、他者の意見を汲み取ることができる。

#### 【関心・意欲・態度】

1. 地域協働リーダーとして積極的に地域社会の人々の間で協働を組織化して地域問題の解決に立ち向かっている。
2. 地域協働リーダーとして地域の長期ビジョンを構想、策定して地域協働を組織することを志向する。
3. 地域協働リーダーとして協働的学びを組織して問題解決に当たることを志向する。

### ▶目指す人材像 — 3つの力の育成

「協働的学び」を地域において組織しつつ後継者を育成できる力

長期ビジョンを住民とともに構想・策定しそれを広く住民に説得・説明する力

地域における新たな資源開発と市場開拓をする力

### ▶在学生の声



#### ■ 現地での挑戦が研究を生きたものにする

武澤里穂 地域協働学専攻2年 | 熊本県出身

研究テーマ: 限界集落の集落活動停滞要因に関する考察

私は今、中山間地域の限界集落での集落機能の停滞の現状・要因について研究をしています。地域協働学専攻の魅力は、思いっきり現地に入り、いろんな挑戦ができることです。いろんな境遇の地域、人を見て「協働」の必要性を実際に感じながら研究を進めることができます。

私自身は大豊町という町の集落をフィールドにしており、実際に聞き取り調査を行ったり、いろんな活動に参加させていただいたりしています。その中で限界集落、集落機能の停滞と重いテーマに向き合い、自分の無力さも時に感じながら、課題解決に向けて研究を行っています。多くの学びが得られるのはもちろんのこと、そこで培った信頼関係は一生物だなと感じます。

大学の中では様々な専門を持つ先生方から少人数の授業でより深く学び、大学外では実際にフィールドに出て現状を自分の目で見て、実践を通して課題解決に取り組める環境があります。このような恵まれた環境で、協働とは何か一緒に向き合ってみませんか？

### ▶カリキュラム

#### 専攻共通科目

地域協働教育演習 デザインシンキング演習  
地域ビジョン策定演習 地域社会学演習

#### 専攻基盤科目

**共生・生活・文化分野**  
ソーシャルキャピタル論特論  
男女共同参画特論  
地域福祉社会学特論  
比較地域社会学特論  
スポーツ社会学特論  
芸術文化学特論

**自治・行政分野**  
自治行政論特論  
コミュニティデザイン論特論

**経済分野**  
地域産業論特論  
国際経済論特論

#### 専攻発展科目

**地域協働教育関連科目**  
地域学習論特論  
ESD特論  
ファシリテーション特論  
組織学習論特論  
健康・スポーツ指導論特論  
社会調査論特論

**地域資源開発・市場開拓関連科目**  
地域資源管理論特論  
里山管理論特論  
6次産業化論特論  
デザイン特論

#### 地域ビジョン関連科目

地域計画論特論  
地域政策論特論  
都市政策論特論  
地域防災計画論特論

#### 専攻ゼミナール科目

地域協働ゼミナールⅠ 地域協働ゼミナールⅣ  
地域協働ゼミナールⅡ 地域協働実践演習  
地域協働ゼミナールⅢ

#### 科目の特徴

専攻ゼミナール科目は、院生が研究能力及び地域協働リーダーとしての機能を高度化させるため、実践面に重点を置いた研究を推進します。この科目では、複数(4~6名程度)の教員及び大学院生が参加し、研究交流を行うことで地域協働リーダーとしての機能の高度化を促進するとともに、アカデミックなコミュニケーション力の向上を図ります。

### ▶取得できる資格

#### 専門社会調査士

専門社会調査士は、調査の問題点や妥当性等の指摘、多様な調査手法を用いた調査企画、実際の調査の運営管理、高度な分析手法による報告書執筆などの実践に関する能力を証明する資格です。地域協働学専攻では専門社会調査士課程を設けており、大学院在籍中に「専門社会調査士(キャンディード)」、また、大学院修了時に「専門社会調査士(正規)」が取得可能です。なお、専門社会調査士の資格取得は、社会調査士資格をすでに取得していることを前提としています。



#### ■ アプローチの広さが学問の独自性につながる

鈴木章生 地域協働学専攻2年 | 茨城県出身

研究テーマ: 公立図書館の課題解決支援サービスに求められる司書の専門性と役割

図書館で働くかわら、学び直しの機会を得ることを願っていましたが、地域協働学専攻でその夢を実現することができました。ただ、その中身は、(良い意味で)想像していたものと違ってました。

一つは、研究テーマについて、既存の学問分野からアプローチするだけではなく、「地域協働学」という学問の独自性を追求するという。そして、もう一つは、多様な地域課題について、体験的に協働的に学びを深めることができるということです。「地域の核となる図書館」の可能性を探究する私にとっては、うってつけの場と考えています。

地域課題の解決に挑む人にとって、他では得難いリスクリングの機会になること、間違いなしです。



# 地域、企業、大学が一緒に 人材を育てる

## 地域の懐に飛び込んで学ぶ

地域協働学部では、地域での実習に3年間で600時間を超える、他に類を見ない多くの時間を割いています。地域や企業の胸を借り、協働を実践しながら学ぶ中で学生は大きく成長し、同時にパートナーである地域や企業にもさまざまな変化をもたらしています。



### ▶高知で学ぶ意義

南には雄大な太平洋、北には急峻な四国山地が控える高知県。その豊かな自然と温暖な気候は、おおらかで独立心旺盛な県民性を育んだと言われています。一方で、全国に先駆けて少子高齢化が進み、日本の将来モデルとしてさまざまな社会課題、地域課題への取組が先行。近年は、住民力、企業力を活かした集落再生や新たな地場産品の開発など、産学官民が協働した試みも多く生まれています。



### ▶地域からのメッセージ



#### “Win-Win”で生み出す協働のかたち

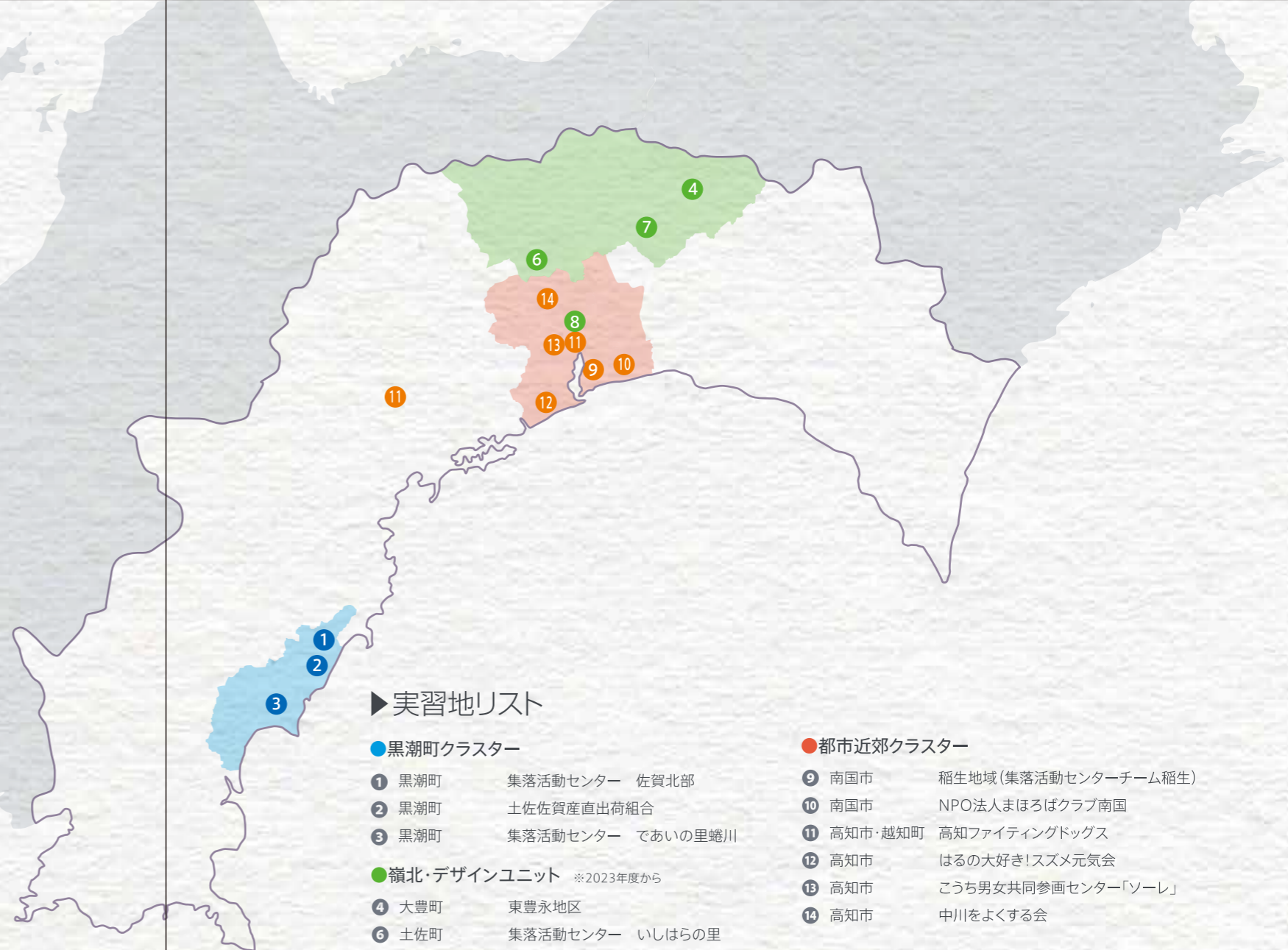
山崎 昇さん 集落活動センター チーム稲生(南国市) 会長 ※2020年度取材

東西に長く田園風景が広がる当地域は、もともと稲作や石灰産業で発展してきたまち。近年、少子高齢化が進み、地域の文化や絆を残そうと集落活動センターの活動を開始する中で、地域協働学部の皆さんとの「協働」もスタートしました。

実習受け入れは今年で5年目。どの学年もそれぞれメンバーの個性や視点が異なり、地域で見つけてくる課題や解決に向けた取り組みも様々です。最初に受け入れた2期生は中谷地区で避難マップづくりなどの活動を、続く3期生は地域情報誌「いなぶっく」の発行や小久保地区で高齢者に向けたサロン活動を展開。現在、4期生が衣笠地区で石灰産業などまちの歴史写真館を作るプロジェクトを、さらに下の学年は地域を知り住民の思いを理解するフィールドワークをしながら、次の協働を創り出そうとがんばっています。彼らから刺激を受けて地域のあちこちでいい変化も生まれており、協働によるWin-Winを実感しています。



現在3つの学年が入っている稲生地域では、集落活動センターの拠点・ふれあい館や14ある各地区での活動、小学校と協働した取り組みなど多様な学びが行われている。また実習だけでなく、地域のお祭りや行事にも学生たちは積極的に参加し、地域住民と顔の見える関係を築いている。



### ▶実習地リスト

#### ●黒潮町クラスター

- ① 黒潮町 集落活動センター 佐賀北部
- ② 黒潮町 土佐佐賀産直出荷組合
- ③ 黒潮町 集落活動センター であいの里蜷川

#### ●嶺北・デザインユニット ※2023年度から

- ④ 大豊町 東豊永地区
- ⑥ 土佐町 集落活動センター いしはらの里
- ⑦ 大豊町 ゆとりすとパークおおとよ
- ⑧ 高知市 こうち文化福祉振興財団

#### ●都市近郊クラスター

- ⑨ 南国市 稲生地域(集落活動センターチーム稲生)
- ⑩ 南国市 NPO法人まほろばクラブ南国
- ⑪ 高知市・越知町 高知ファイティングドッグス
- ⑫ 高知市 はるの大好き!スズメ元気会
- ⑬ 高知市 こうち男女共同参画センター「ソーレ」
- ⑭ 高知市 中川をよくする会



#### 学生力×地域力で、未来をつくる

金子 貴博さん 集落活動センターであいの里蜷川(黒潮町) 会長 ※2021年度取材

であいの里蜷川は、地域活性化に向けた住民活動の拠点として、廃校になった小学校を活用して整備されました。2016年から集落活動センターとなり、黒潮町の豊かな自然や伝統文化を観光資源に、田舎寿司づくりやそば打ちなどの体験と宿泊のできる

交流施設として、住民力を活かし活動を展開しています。

ここで2020年から学生たちと一緒に進めているのが、特産のミョウガの6次産業化です。住民が生産・加工し、学生たちがパッケージデザインや消費者アンケートなどを担当。市場の反応もよく、県内だけでなく東京のアンテナショップでも販売されるようになり、地域の新たな誇りとなっています。他にも学生たちは、住民が気づかなかった地域の魅力を発見してくれたり交流で地域に元気をくれたりと、蜷川にとって大事な存在。コロナ禍の中でも、オンラインで近況報告や会議をして、時間や想いを共有しています。彼らのさらなる成長がとても楽しみです。



地域と学生が協働で開発した商品「ミョウガのかげら」。パッケージのイラストやデザインを学生たちが手掛けた。販売の現場にも入り、アンケートを実施。情報をマーケティングに活かした。

# 学びを支える教員たち

学生たちが自ら考え、主体的に実践を行っていく上で、学びのファンリテートを行うのが教員の役割です。いくつもの要素が絡み合う地域の課題に向き合うため、幅広い専門性や人脈を持った教員が学生たちを導き見守ります。

## 専門分野紹介 地域社会学って？

人々の行動や考え方の背後にはどんな社会構造があるのか、調査や聞き取りを通じて考えます。楽しいですよ！



## 実践の中からこそ、研究のパワーが生まれる

玉里 恵美子 教授 専門分野/地域社会学、地域福祉論

地域協働学部では1年生から3年生まで地域や企業の現場に入って実習を行います。そこで気づいたことや体験したことを、知識の統合として4年生で研究につなげ、卒業論文にまとめます。実はこれ、今までの大学教育とは“真逆”の学びです。

学生たちは、地域でいろいろな人々と関わり合いながら、何が課題なのかを探り、どうすればそれを解決できるのかを考えていきます。その過程で「それには社会調査が必要だ」とか、「地域福祉の視点がいる」などと気づき、それを勉強していくのです。先に学問を学んでそれをどう活かすかではなく、先に実践があります。だから、研究のパワーも全く違います。

もう一つ特徴的なのは、就職活動における優位性です。就活が始まる3年生後半の時点で、地域協働学部の学生はみっちり現場を体験しています。面接もグループワークも全て実習の話で乗り切ったというのは、先輩たちが口を揃えて言う体験談です。皆さんも、ここでしかできない協働の学びと一緒に取り組んでみませんか？



南国市稲生地域での実習の様子

学生が制作した情報誌「いなぶっく」と稲生小学校150周年記念DVD

## 専門分野紹介 地域防災って？

地域コミュニティの中で、災害時に備えて日頃から何ができるのかを考え研究します。高知はまたとないフィールドです！



## 学生も地域も、ともに学び合う

藤岡 正樹 准教授 専門分野/地域防災

いわゆる“教育”という言葉のイメージでは捉えきれないのが、地域協働学部の学びです。教える側と教えられる側という従来の枠組みではなく、学生も地域の人も我々教員も、ともに学び合い、育ち合うのが地域協働の学びの特徴です。

だから、語弊を恐れずに言うと、実習において教員から学生への「指導」は基本行いません。企画会議やワークショップの進行もできるだけ学生自らがするよう仕向けます。実践の場ですので、当然、多くの困難に直面しますが、自分たちが動かなければイノベーションが起きない事に気づきます。

そして、学生たちが主体的に動いていくと、協働は自然に広がります。私が担当している大豊町ゆとりすと実習班では、学生が地域で知り合った林業関係者の方と一緒にキッチンカーならぬキッチン・リアカーを手作りし、それをゆとりすとパークおとよのイベントに活用することができました。そういうところも、地域協働の学びのおもしろさだと思っています。



地域の方と作った「キッチン・リアカー」でブルーベリーを使った新商品をPR販売

「ゆとりすとパークおとよ」で望める満点の星空を生かした企画を考え中

## ▶教員一覧

石筒覚 市川昌広 今城逸雄※ 内田純一 大石達良 大槻知史 齊藤雅洋 佐藤文音 佐藤洋子 霜浦森平 鈴木啓之 須藤順 田中求 玉里恵美子 中澤純治 中村哲也 藤岡正樹 俣野秀典 松本明 湊邦生 森明香※ 吉岡一洋※

※学部専任教員

詳しい教員情報はホームページまで



# 企業人と出会い、自分を磨く

地域協働学部の学びを支えるもう一つの大きな力、それが企業や公的機関とのネットワークです。さまざまな業界・業種・規模の法人やその経営者、行政職員などが定期的に学生と関わり、成長を後押ししてくれています。

## ▶高知大学地域協働学部「地域協働教育推進会議」

— 学生の成長を支える“応援団” —

「地域力を学生の学びと成長に活かし、学生力を地域の再生と発展に活かす」という本学部の教育理念に賛同くださった企業などで構成される組織です。会員企業と学生が直接交流する機会を定期的に設け、学びや実習に対して助言・支援を行うほか、社会人師匠講座を主催しています。

会員数(2022年度)

法人・団体会員 個人会員

69 団体

60 人

※うち賛助会員4名



## ▶企業からのメッセージ

### 学生とともに企業も育つ

中澤陽一さん 高知大学地域協働学部「地域協働教育推進会議」代表理事/和建設株式会社 代表取締役社長

私が代表理事を務める地域協働教育推進会議は、学生の活動拠点となっている県下いろいろな地域が持つ課題に向き合い、学生自らが考えて行動する活動を応援していくとの想いで組織しています。

一方で学生へのちょっとしたアドバイスから大学の課題への論評まで、いろいろの機会をとらえて少しでも接点を持てるように運営しています。

そうしたつながりを通して、地域への想いや若い人たちの考え方を共有することで、我々自身が勉強になる場面に会うこともあります。

激しく変化する時代の中で、学生との世代を超えた交流が、企業をさらに進化させていく力となることを心より願っています。



### 学生の多様な報告会を支える「地域協働教育推進会議」

積み上げ型の教育プログラムを特徴とする本学部では、学期ごと及び学年ごとに活動を振り返ってまとめ、プレゼンテーションする場を設けています。主に実習受け入れ地域の方々や保護者向けの「実習成果報告会」と、地域協働教育推進会議会員や県下の自治体向けの「学習成果報告会」(▶8ページ参照)があり、どちらも学びを省察し客観的に評価する重要な機会となっています。

# 入学者選抜の考え方

## 入試の基本的な考え方

地域協働学部では、意欲、関心、適性、技能、表現を重視した入学者選抜を行います。専門的教育課程においては、実習とゼミナールを重視したカリキュラムを用意しています。このような教育課程で学ぶには、入学時に一定の集团的行動・集团的学習や学外の「おとな社会」とのコミュニケーションに適合する資質を持っていることが必要です。そのため、総合型選抜Ⅰ、学校推薦型選抜Ⅰ、一般選抜(前期日程)のすべてに「面接」、「小論文」または「作文」を課し、人物重視の選抜方法を採用しています。

## アドミッション・ポリシー

地域協働学部は、地域理解力、企画立案力、協働実践力という3つの知識・能力を統合した「地域協働マネジメント力」を有し、多様で複雑な地域の課題を発見・分析・統合し、産業の分野や領域の壁を越えて人や組織などの協働を創出でき、卒業後即戦力として活躍できる「地域協働型産業人材(6次産業化人、地域協働リーダー)」を養成します。本学部では、このような人材養成の基盤となる、以下の能力・態度を備える者を求めます。

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	関心・意欲
<ul style="list-style-type: none"> <li>入学までの過程で理系・文系を問わず幅広い教科を積極的に学び、地域協働に関連する専門的知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的思考力と理性的判断力を持って物事に取り組むことができる。</li> <li>自らの行動や体験について深く見つめ直し、客観的に分析することができる。</li> <li>自分の表現を客観的に見つめ、他者に伝わる表現を心がけており、口頭と文章の両面にわたって十分な表現力を持っている。</li> <li>豊かな教養に裏打ちされた能力で、課題の発見・探求とその解決にあたることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生同士の協働を基礎として、チームとして考え、行動し、課題の解決にあたることができる。</li> <li>さまざまな行動体験がある。</li> <li>地域や日本社会に生じる問題の解決に挑戦する行動力を有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな問題領域の知識や技術に対して関心がある。</li> <li>地域や日本社会に生じる問題に関心がある。</li> <li>地域社会に存在する諸課題とその実践的解決、特に地域産業の振興に関心があり、積極的に地域社会の人々と協働する意欲がある。</li> <li>さまざまな行動体験を自らのキャリア形成や地域社会の人々の協働に活かす意欲がある。</li> </ul>

## 総合型選抜Ⅰの2段階選抜

総合型選抜Ⅰでは、2段階選抜を行います。第1次選抜では、「講義理解力試験」と「ゼミナール活動適性試験」で評価します。「講義理解力試験」では、当学科の教員による講義を行い、その理解力を確認するための試験を行い、「思考力・判断力・表現力」を評価します。「ゼミナール活動適性試験」では、簡単なグループ活動を行ってもらい、それに続けて、グループ活動の振り返り演習を実施します。振り返り演習では、議論もしくは行動の結果と、グループ活動のプロセスでのチームのあり方について考えてもらいます。採点は、チームとしての成果を向上させる資質という視点から、グループ活動とその後の振り返り演習の両方での受験者の「ふるまい」(発言、傾聴、行為など)について試験者が観察し、行います。

第1次選抜の合格者は総合型選抜Ⅰ募集人員の2倍程度とします。第2次選抜では「口頭試問を含む面接」を課します。この試験では、個人課題の成果発表、発表への質疑応答、志望理由に関する掘り下げを行い、受験者の「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「関心・意欲」を中心に評価します。

## 学校推薦型選抜Ⅰのグループ活動および振り返り演習

学校推薦型選抜Ⅰでは、「グループ活動および振り返り演習適性試験」、「作文」、「面接」を課します。

「グループ活動および振り返り演習適性試験」では、ごく簡単なグループ活動を行ってもらい、それに続けて、グループ活動の振り返り演習を実施します。振り返り演習では、議論もしくは行動の結果と、グループ活動のプロセスでのチームのあり方について考えてもらいます。「面接」は個人面接で行い、「教科外活動」「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」の4つの重点評価項目について、複数の採点者が評価します。調査書、志願理由書は面接の資料とします。

## 一般選抜(前期日程)への面接等の導入

一般選抜(前期日程)では、大学入学共通テストによって基礎学力を評価する他、本学の独自試験として「小論文」と「面接」を課します。「小論文」では地域社会の問題に関する課題文を読んだ上で、その論旨や受験者の見解を論述してもらい、「思考・判断」を評価します。「面接」では、簡単なグループワーク(討論やプレゼンなどの共同作業など)を行ってもらうことを含むグループ面接を行い、「関心・意欲・態度」および「技能・表現」について判定します。グループ面接内では、各受験者毎に志願理由や高校までの経験等に関する質疑も行い、対話能力や本学部の教育に対する意欲・適性についても評価します。なお、出願書類として志願理由書(受験者の経験に関する振り返りおよび本学部での学習に関する抱負を記入して頂くもの)を提出して頂き、面接の参考にします。

# 入試情報

## 地域協働学部の選抜・評価方法

募集人員 **60**名

### 総合型選抜Ⅰ 募集人員:15名

- 選抜の方法 大学入学共通テストを課さず、本学独自の2段階選抜による試験(第1次選抜300点、第2次選抜200点)で判定します。第1次選抜の合格者は総合型選抜Ⅰ募集人員の2倍程度とします。
- 重点評価項目 「関心・意欲」に重点を置いて「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」「知識・技能」も評価します。

第1次選抜の成績(計300点)及び第2次選抜の成績(計200点)の総合評価(合計500点)で最終合格者を選抜します。		
本学独自の第1次選抜(合計300点)		本学独自の第2次選抜(合計200点)
講義理解力試験(200点)	ゼミナール活動適性試験(100点)	口頭試問を含む面接(200点)
約90分の講義を聴いてもらい、それを前提とした小論文形式等の筆記試験を行い、主に「思考・判断」を評価します。	グループディスカッション(指定テーマに基づくグループ討議、振り返り演習)を行ってもらい、「技能・表現」の特にコミュニケーション力を評価します。	口頭試問を含む面接では、個人面接により、個人課題の成果発表(5分程度)、発表への質疑応答及び志望理由に関する掘り下げ(15分程度)を行います。

### 学校推薦型選抜Ⅰ 募集人員:10名

- 選抜の方法 大学入学共通テストを課さず、本学独自の試験(400点)で判定します。  
※出願資格として高等学校等を令和6年3月卒業(修了)見込みの者で、学校長の推薦(評定平均値4.0以上、各校1名)を求めます。
- 重点評価項目 「主体性・多様性・協働性」に重点を置いて、「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」「関心・意欲」も評価します。

本学独自の試験(合計400点)		
グループ活動および振り返り演習適性試験(200点)	作文(100点)	面接(100点)
グループ活動(共同して所定時間内で行える作業や討論など)を行ってもらい、グループ活動中の行動特性や振り返り演習での役割などについて観察し、「主体性・多様性・協働性」の特にコミュニケーション力を評価します。	グループ活動および振り返り演習適性試験の内容に関して、文章を書いてもらい、「思考力・判断力・表現力」の特に書き言葉での表現力を評価します。	面接は、個人面接とし、志願理由書記載の志願理由を掘り下げ、本学部で学ぶ「関心・意欲」、経験・技術(農業、水産、工業、商業、芸術・デザイン、スポーツ等)などについて確認すると共に、本学部の教育カリキュラムへの適性を評価します。

## 一般選抜(前期日程) 募集人員:35名

- 選抜の方法 大学入学共通テスト(500点)と本学独自の試験(500点)の合計1000点で判定します。
- 重点評価項目 「知識・技能」に重点を置いて「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」「関心・意欲」も評価します。

大学入学共通テスト(合計500点)	本学独自の試験(合計500点)	
	小論文(200点)	面接(300点)
3教科3科目又は3教科4科目合計500点で実施します。 ●国語(200点)、外国語(200点)※は必須です。 ●残り1教科は、地歴、公民、数学、理科の4教科から1科目(基礎を付した理科は2科目)を自由に選択できます。(100点) これによって「知識・技能」について評価します。 ※「外国語」の教科について「英語」はリスニングを含む。	「小論文」では地域社会の問題に関する課題文を読んだ上で、その論旨や受験者の見解を論述してもらい、「思考・判断」を評価します。	グループ面接(グループ単位で提示されたテーマについて討議やプレゼンを行う作業を含む)を実施することで、「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」について判定します。グループ面接内では、各受験者毎に志願理由や高校までの経験等に関する質疑も行い、対話能力や本学部の教育に対する意欲・適性についても評価します。 なお、出願書類として志願理由書(受験者の経験に関する振り返りおよび本学部での学習に関する抱負を記入して頂くもの)を提出して頂き、面接の参考にします。